

Diastolic Dysfunction as a Positive Predictor of Recurrent Vascular Events in Patients With Noncardioembolic Stroke

Kentaro Ishizuka, Takao Hoshino, Takafumi Mizuno, Shuntaro Takahashi, Sho Wako, Satoko Arai, Sono Toi, Kazuo Kitagawa

Stroke. 2024 Feb 8. doi: 10.1161/STROKEAHA.123.042548. Online ahead of print.

背景: 本研究の目的は、非心原性脳梗塞患者において左室拡張機能障害 (LVDD) と血管イベントの関係を評価することである。

方法: 本研究は前向き観察研究であり、当科の TWMU Stroke Registry に 2013 年から 2020 年の間に登録された非心原性脳梗塞患者 563 例 (平均年齢 67.9 歳; 男性 66.7%、女性 33.3%) を対象とした。その患者を LVDD 群と非 LVDD 群に分け、主要アウトカムを発症から 1 年以内の非致死性脳卒中、非致死性急性冠症候群、血管死を含む複合心血管イベントと定義し、2 群間での比較を行なった。血管イベントに対する LVDD の影響は Cox 回帰分析を用いて評価された。

結果: LVDD を有する患者は合計 130 例 (23.1%) であり、LVDD を有する患者は、非 LVDD 患者に比べて 1 年後の複合心血管イベントのリスクが高かった (年率、20.9% vs. 10.8%; log-rank $P=0.001$)。Cox 比例ハザード回帰モデルでは、LVDD が主要心血管イベントリスクと独立して関連していることが示された (ハザード比 1.79 [95%CI, 1.02-3.12]; $P=0.019$)。さらに LVDD のグレードの悪化は主要心血管イベントおよび脳卒中再発のリスクの増加に関連した。

結論: LVDD は非心原性脳梗塞後のさらなる血管イベントと関連する可能性があり、リスク評価のための LVDD 評価の重要性が示唆される。

Figure. Kaplan-Meier curves for major adverse cardiovascular disease according to left ventricular diastolic dysfunction (LVDD) or non-LVDD.

